

北海之光

8月号 北海道教区報

どのような道を歩むときにも主を知れ
主はあなたの道筋をまっすぐにしてくださる

箴言3章6節

発行所 北海之光社
001-0015 札幌市北区北15条西5丁目1-12
日本聖公会北海道教区事務所
電話 011-717-8181
FAX 011-736-8377
E-mail:hikari@nssk-hokkaido.jp
http://www.nssk-hokkaido.jp
発行人 笹森田鶴

150⁺th

主われらを愛す

留萌キリスト教会管理牧師
函館聖ヨハネ教会協働司祭
司祭 ヘレン 木村 夕子

会堂長ヤイロには危篤の床に幼い娘があり、その子が生きるように手を置いて祈ってほしいとイエス様に願いました。するとまもなくその子がもう亡くなったと知らせが来ますが、イエス様はヤイロの家の向かいました。ヤイロには「恐れることはない。ただ信じなさい。」と言い聞かせ、家で泣き騒ぐ人たちに対しては、「子どもは眠って居るのだ」と言い聞かせました。そして少女の手を取って「タリタ、クム」(少女よ、さあ、起きなさい)と言われると、その子はすぐに起き上がって歩き出したということです。

ヤイロが言う所の幼い娘は一二歳にもなっていたとあり

ですが、ユダヤの宗教的な成人年齢が女子では一二歳なので、すでに幼いとは言えない所に違和感があります。ユダヤでは飲酒などはまだ認められないとはいえ、社会的には責任を持つ大人として認識される存在です。

一方、「子どもは死んだのではない。眠っているのだ」と言われたイエス様の言葉は、実にその言葉の通りになります。イエス様は頭に手を置く癒しの形を取らず、少女の手を取って引き起こす形で言葉をかけます。死の世界に縛り付けていたものから彼女を剥がし取るように、イエス様は彼女を死から解放してこの世界に引き起こしてく

だしました。イエス様が少女の手を取って「タリタ、クム」と言葉(「神様の愛」)を伝えてくださること、そこに自分が重なっていると感じた時から、「タリタ、クム」は私をも力づける言葉になりました。

ヤイロが娘可愛さのあまりに見えていないものがあると理解するなら、それは一体何でしょうか。それを見失ったために死の世界に娘を縛ることになったものが何かあるのだと思うのです。「恐れることはない。ただ信じなさい。」ヤイロに対して、恐れに囚われて信じることを忘れている状態から、信じる者でありなさいと、イエス様は伝えていきます。神様の働きに信頼を置くことを忘れて、人は一体何が出来ると言えるのでしょうか。けれども実際、恐れてばかりいるのも事実です。

こんな考えが浮かびました。イエス様、私たちの大事

な教会が死にそうだと思うのです、手を置いて生きるように祈ってください。こんな事をイエス様に伝えたい事があります。そんな私たちにイエス様が聞かせて下さる福音の言葉は、「恐れずに、ただ信じること」「彼女は眠っているだけ」、そして「タリタ、クム」。

いつ辞めても良いと励まされ、自らも閉ざされたならばそこまですべて歩いて歩んできた。けれど、ここまでかと思った時、歩み続けることを強く願いました。「さあ、起きなさい」の言葉を受け取ったからです。イエス様に起こしていただいた人々の中の一人として、神様の言葉によって生かされる喜びをこれからも分かち合い、祝って行きたいと思います。

—心の窓をひらく—



福音と私 (二八三)

—今、なぜ、私はキリスト者として生きるのか—

札幌キリスト教会信徒

ジャスティン 加藤 光

【私の好きな聖句】

あなたがたは世の光である。山の上にある町は、隠れることができない。また、灯をともして升の下に置く者はいない。燭台の上に置く。そうすれば、家にあるすべてのものを照らすのである。そのように、あなたがたの光を人々の前に輝かせなさい。人々が、あなたがたの立派な行いを見て、天におられるあなたがたの父を崇めるようになるためである。

(マタイ五・一四～一六)

私は愛知県安城市の信徒の家庭に生まれました。大きな目をしていることから「瞳」と名付けられ、長女として育てられました。そんな私は札幌キリスト教会で洗礼を受

け、名前と性別を変え男性として生活しています。私のユニークな人生の転機にはイエス様が大きく関わっています。今回はその出来事を二つお話ししたいと思います。

中学生の頃、障害のあるクラスメイトが教室で取り囲まれていじめられているのを目撃した私は見過ごすことができず、いじめっ子たちを一喝しました。集団は蜘蛛の子を散らすように逃げて行きましたが、問題が起きたのは次の日です。突然私の悪口が学校中に流され、他クラスの生徒や上級生からも後ろ指を指されるようになりました。クラスが変わっても悪口で溢れ、孤独な三年間を過ごしました。なぜ正しいことをした私がこんな目に遭わなければ

いけないのかと親に相談すると「余計なことをしたお前が悪い」と言われました。では見て見ぬふりをしたり、一緒に嘸し立てたりすればよかったのか？不思議とそうは思えず、全く後悔はありませんでした。

高校は全く予期せずカトリックの女子校に進学することになり、初めてのキリスト教を学ぶ授業がありました。聖書を読むうちに、私のモヤモヤは綺麗に晴れることとなりました。聖書にはイエス様をはじめ、正しいことをした人々が酷い目に遭う場面が多くあります。それでも神様は全て見ておられ、評価してくださいいます。これはまさに福音でした。神様は深く傷付けられた私に「あなたは正しいことをした」と伝えてくださっているのです。私の洗礼名がジャスティンなのは、この経験から正義を大切に忘れずに生きたいという想いを持ったからです。

様々な縁があり、大学卒業後札幌に移住した私は、今は教会に所属しながら信仰

生活を送りたいと思い、洗礼を受けられる教会を探しました。トランスジェンダーの私でも受け入れられるLGBTQに対する差別や偏見のない教会を探するためにネットで調べていると、札幌キリスト教会を発見しました。早速訪れると、「多様性を大事にする教会」と書いたポスターが真っ先に目につき、興味を持ちました。そして大町先生に経緯を話しかミングアウトをすると、私のような人も歓迎してくださるとのこと、ここで洗礼を受けることを決断しました。その後「虹色のはこぶね」という有志の団体を結成し、「さつぽろレインボープライド」の関連イベントを毎年行っています。また、北海道教区は毎年レインボープライドに協賛してくださっています。

私はなぜ自分がトランスジェンダーに生まれたのか何度も悩み、考えました。決して自分で選んだものではありません。むしろ治せるものなら治したいと思ったこともありましたし、あまりのつらさ

に人生をやめようとした経験もあります。しかし神様は私をトランスジェンダーとして創造されました。きっと人間を創られた時と同じように、私をお創りになった時も「とても良い」と仰ったのでしょう。私だからこそできることがあり、それを期待して私にこのセクシュアリティをお与えになったのだと感じるようになりました。

今年のレインボープライドは九月一五日。その直前の九月一二日、一三日には、パレード関連イベントを札幌キリスト教会で行います。神様がお創りになった多様性を、皆様も一緒に喜び祝ってくださいますように。

註

LGBTQ…性的マイノリティを表す総称の一つで、主に性的指向と性自認に分けられる。トランスジェンダー…生まれたときに認定された性と異なる性自認を持っている人

常置委員会報告

第九回 七月二十五日

《協議事項》

一、聖公会神学院第二回説教セミナーに参加する教役者に費用を補助することとした。
二、二〇二三年度教区会計決算案について審議した。

三、来年度の教区会の日程を一月二二日～二三日と決定した。また、会期中に東北教区との合同プログラムとして「おぼんです二〇二四」を実施することとした。
四、稚内伝道所の教会建物営繕の件について協議した。

お詫び

「北海の光」五月号「東北教区教会紹介」の記事に誤りがありました。

誤 一戸市
正 一関市

また、「北海の光」七月号「福音と私」執筆者のお名前に誤りがありました。

誤 石川 真一
正 石川 進一

ここにお詫びして訂正いたします。

十

教区逝去教役者
記念聖餐式

九月二一日(水)

午前一〇時三〇分
於 主教座聖堂

次の方々を覚えて祈ります。
どなたでもご参列ください。

司 祭 木 末 登

司 祭 本 間 弥 門

司 祭 岡 村 龍 夫

司 祭 須 貝 隆

伝道師 門 崎 まさゑ

伝道師 A・M・ヒュース

伝道師 E・E・ヒュース

司 祭 柴 田 新太郎

一九三四年九月二〇日



主教室から

教区宣教一五〇年記念礼拝に多くの方々が遠方からまた近隣から駆けつけてくだ

さり、共に主に感謝と賛美をおささげできました。ことは望外の喜びでした。会場は熱気と出合いの喜びに満ち溢れていました。何よりも主のお導きと、さまざまなお理由で参列できなかった方々や先に逝去されたすべての方々の篤い祈りに支えられていると感謝し、先日デニング司祭の墓参にも行ってまいりました。

多くのお祝いメッ

セージの中で、礼拝中

にご紹介したCMS本部のアラスター・ベイトマンCEOのメッセージの一部をご紹介します。

「この記念日を祝う時、皆さんは教会の物語における重要な瞬間を思い出していることでしょう。その瞬間がCMSの物語において

も、また何よりも神がなされ、そして今もなし続けておられる物語においても、重要な瞬間であったことを覚え、皆さんと共に祝い

いたします。

この神の物語が、北海道教区の皆さんの間で、CMS

Sの私たちの間で、そして世界中の神の民の間で、これからも続いていくことを祈ります。」

記念礼拝の朝、ベイトマン氏から再度メールをいただきました。記念礼拝前日にお母様の家をお訪ねになった折、偶然彼の大叔母様のSPG宣教師ミス・ローズの手紙のコピーをその家で見つけたというのです。

ローズ宣教師はほぼ一〇〇年前にSPG派遣の宣教師として来日した方です。関東大震災直後九日目の様子を軽井沢にて手紙にしたため、SPGやCMSの宣教師たちが知る限りにおいて

皆無事のようなと綴って英国に送っている手紙でした。この手紙を見つけ、ベイトマン氏はますます北海道教区に思いを馳せ、手紙の写真画像を送ってくださいました。神の物語が確かにわたしたちの間で続いていたことのしるしのような手紙でした。神様からの贈り物のごとく彼の目に留まり、またわたしたちの許にも届けられたのです。このようなつながりをこれからも一つひとつ大切にしていきたいと願います。

主教マリア・グレス 笹森 田鶴

宣教一五〇年実行委員会報告 (17)

司祭 サムエル 吉野 曉生

みなさんこんにちは。宣教一五〇年実行委員会です。

宣教一五〇年記念礼拝が七月一日(月・休)に札幌キリスト教会で行われました。天気にも恵まれ、暑くなった札幌キリスト教会は、熱気に包まれていました。司式は笹森田鶴主教、説教者は中部教区の西原廉太主教でした。西原主教はCMSの記録などを紐解きながら、教区の宣教の歴史を語ってくださいました。礼拝出席者は記帳された方で三九〇名。一階席までいっぱいのお客が座っていました。道内のほとんどの教会の方が参加され、東北教区からも九名の方が、そして首座主教の上原主教をはじめ、多くの主教さま方も参加されました。他にも他教区から多くの方が駆けつけてくださり、盛大にお祝いすることができたことに感謝いたします。

午後から会場をクリスチャーセンタールホールに移しての祝会も、大友然さん、宮本樹さんの司会で進行。若い力が大活躍でした。最後に作曲者である佐々木茂さんのピアノで「ペリカレラ モシリ」を歌い、祝会も幕を閉じました。こちらも三〇〇名近くが参加したので、会場はぎっしり。いろいろな人にお会いできて、楽しい交わりのひと時となりました。

同時に札幌キリスト教会一階ホールでは「英国聖公会宣教師ジョン・バチラーの足あと展」が二風谷アイヌ文化博物館との共催で行われており、礼拝のついでにたくさんの方が展示を見ていただきました。こちらは延べ五〇〇名ほどの入場がありました。

また、一五〇年記念グッズもお馴染み缶バッジをはじめ



説教をしていただいた西原廉太中部教区主教

子ども聖歌隊を祝福してくださったドナルド・カーク
オーストラリア聖公会リベリナ教区主教

祝祷くださった上原榮正首座主教、沖縄教区主教



め、ハンドタオルやマグカップ、ボールペンなどを販売。こちらはまだ在庫がありますので、ぜひ記念にお求めください。カタログを各教会にお届けしてあります。LINEスタンプもありますので、QRコードから求めください。

何度もお伝えしていますが、宣教一五〇年は「この記念礼拝」で終わりではありません。今年一年、そして来年と、続いていく企画もあります。宣教一五〇年実行委員会は「宣教一五〇年」というのは、今年一年で終わるのではなく、今年から始まるムーブメントだと認識しています。「すでに終わったこと」ではなく、「今、起こっていること」「まだまだ続くこと」だとみなさんが認識していただけたら幸いです。

さて、それではこれからの企画をお知らせします。まず、「福音と私」の冊子の第一号が完成しています。各世帯に一つ配布予定です。第二号も

近いうちに完成予定です。そして、連続講座「アイヌとキリスト教」の第四回が九月九日に行われます。講師は北海道博物館学芸副館長兼アイヌ民族文化研究センター長の小川正人さんです。まだ申し込みもできますので、ぜひご参加ください。前日までに申し込みをしないとオンラインでの視聴はできませんのでご注意ください。默想会は次回八月三十一日(土)に留萌キリスト教会で、木村夕子司祭が黙想指導してください。さらに北海道教区宣教協議会の第一回が一月一四日(月・祝)に行われます。現在各教会で参加者を選んでもらっているところです。また、スタンプラリーも準備が進んでいます。ぜひみなさんも参加してくださいね。それではまた来月お会いしましょう。



150th 歩み続けよう、福音の道へ

日本聖公会北海道教区 宣教150年記念礼拝

2024年7月15日(月・休)
主教座聖堂 札幌キリスト教会

レセプションでご挨拶くださった
長谷川清純東北教区主教

大館聖パウロ教会

大館は忠犬ハチ公、名物キリタンポで知られ緑の山々に囲まれた盆地です。

教会は宣教一二〇年を迎え隣接する大館幼稚園の新園舎が完成、新たな出発です。宣教一〇〇年の記念として、卒園生が「四福音記者のシンボル」を描いたステンドグラスを製作、聖堂正面の綺麗な丸窓は祈りの中心となつています。二〇〇七年より続いている東京聖マργレット教会との交流はお互いの訪問や祈りを通して豊かな恵みを共有しております。

礼拝出席一〇名前後、温かい交わりを大切にしています。



今年も夏のキャンプ！

北海道教区支部長

セシリア 小澤 暢子

GFSの夏のキャンプは、もう三〇年近く続いてきた夏のキャンプですが、今年も有珠で約五〇名の参加申し込みがあり実施しました。日帰りの海キャンプになつてからは、お母さんと子どもたち、お父さんと子どもたちなど家族での参加も多くあります。小さかった子どもたちが大きくなり、スタッフとして力を貸してくれます。「有珠が夏の一番の楽しみ」といつてくれる大学生や、この日のため



に休みを取ってくれる社会人たちもいます。

今年は、二歳の女の子や海デビューの五歳の女の子もいました。有珠の海は遠浅できれいな砂浜なので危険も少なく遊べます。帰る時間ぎりぎりまで海で遊び、用意されたご飯や焼きそば、スイカなどを食べて一分一秒を惜しんで遊びつくしていました。みんな日焼けして無事帰ってきました。

バスが帰ってからは、泊っていくリーダーやスタッフたちの時間です。今年は、夜中の間にどんだん潮が引き、また違った楽しみ方ができました。

歴史の窓2024(8) 博物館特別展に出席参加

教区一五〇年記念「ジョン・バチラーの足あと」札幌移動展が平取町立二風谷アイヌ文化博物館の協力を得て開催された。歴史文書保管委員会(歴史)は教区アーカイブズ五冊の特別展示で参加した。

会場の札幌キリスト教会一階ホールは三分割され、歴史資料は入口直ぐに設置。バチラーによるアイヌ語の聖歌集、祈祷書、新約聖書、詩篇に加え、アイヌ・英・和辞書第三版を公開した。資料は記念礼拝当日のみの展示であったが委員会メンバー三名で管理と説明を行った。資料を紹介するリーフレットも作成、前回

た。「昨日、小さい子たちがいる間に引き潮だったからよかったね」と話しながら、次の日の朝は、七時くらいから海に入つて夏を堪能しました。札幌に戻り、砂だらけの道具を片付けて今年の有珠のキャンプは終わりです。

子どもたちと一緒に海に入つて過ごす若いスタッフ。

それを見守るスタッフ。楽しんでおいでとスタッフを支えてくれる教会の皆さん。多くの方々の支えと祈りがあつてここまで続けてくるのができたGFSの夏のキャンプ。「ありがとうございます。来年もまた来ます」と海に挨拶して帰ってきました。



紹介した聖歌一番と一八番の二曲のローマ字歌詞を掲載した。隣のコーナーでアイヌ語聖歌一番が流れ、アイヌの人々へのローマ字を用いた宣教活動に思いを馳せた展示となった。教区アーカイブズは歴史研究の貴重な資料でもあるが何よりも教区の人々の共通の遺産であり、こうした機会を得て共有出来たことに大きな意義を感じている。主に感謝。

教区歴史文書保管委員会



第七回 北海道教区

クララ 吉谷 かおる

北国にも夏が到来。五月以降の「チーム北国」の活動を報告します。コアメンバーのミーティングは対面とオンライン交互に毎月行われていきます。月に一度オンライン・ミーティングを行っている「宣教協働」「広報」「組織」「財政」の四つのセクションは、この間にそれぞれ対面でのミーティングも実施しました。

教区間の交流としてはまず、五月一四日～一六日に仙台で合同教役者会が開催されました。その時の写真を載せたリーフレットが発行されたので、両教区の先生方のお顔とお名前を憶えていただ

ければと思います。長谷川主教・笹森主教のメッセージ、「ミッシェン・ステートメント二〇二三」もどうぞお読みください。

六月九日には「大館の教会の物語を聴く会」が開催され、大館からの生中継を各教会がオンラインで視聴しました。後日DVDでの視聴もできるようにになりました。信徒の皆さんのお話を励まされたという声が多く聞かれました。

六月三〇日北海道教区「出会いと交わりの日」に、李賛熙司祭が函館聖ヨハネ教会へ、上平更司祭が青森聖アンデレ教会に派遣されました。今後このような交流が拡大されるのが期待されます。

七月一五日の北海道教区宣教一五〇年記念礼拝に、東北教区から九名が出席。両教区が親睦を深める機会にもなりました。

今後は一月の教区会に向けて組織や財政に関する検討を進めるとともに、宣教協働のための楽しいプログラムを企画していきます。

能登半島を訪れて

札幌聖ミカエル教会信徒

グレイス 雨宮 春子

発災当時、私はタンザニアに居ました。遠く離れた地にも、日本の地震の様子はテレビなどで連日流れ心配する日々が続きました。二月末に帰国後、復興状況が気になりましたが、あまり情報は入ってこないことに少し困惑しました。そんな時に、京都教区能登半島地震対策室からのボランティアの募集があり、「とにかく現地に足を運び、自分の目で見て確認しよう」という思いで参加させていただきました。活動初日、輪島市に向かう道は、言葉を失うものでした。既に発災から三カ月半が過ぎていたのに、震災当時からはほとんど変わっていないのには、山や道は崩れ、崩れた道に落ちた車がそのまま残っていました。輪島市の朝市は、大きな火災により焼け野原のようになっており、時が止まっているようでした。全国各地から参加

したメンバーも「三カ月半もたっているのに…」と言葉を失いました。初日は、被災住宅の荷物整理、清掃活動をさせていただきました。家主は七〇代ぐらいの一人暮らしの女性で、一時避難先である金沢から車で通い、平日は輪島市の被災した家で過ごし、週末は避難所に戻る生活をされていました。居間のソファに寝袋で寝ているのことに、震災前はヘルパーの訪問を週に二回受けていたが、震災後は来てもらえていない、ということ、家の中は、雨漏りで濡れた衣服や、棚から崩れた本や家具、長期間の停電で中の物が液状化になってしまった冷蔵庫などがそのままになっていました。「毎日、片付けないと、とは思っただけ、何から手を付けて良いか分からず、毎日一人で途方に暮れ暗くなってしまう」と呟く女性。このように、孤独や取り残されたと感じている方が、多くいることを思い知らされました。「一人ではない」と伝えることが、と

ても重要であると感じ、会話を楽しみつつ一緒に片付けをさせていただきました。五月には、珠洲市に住んでいる、北海道教区に深く関わりのあるハンセン司祭の娘さんであり、金沢聖ヨハネ教会の信徒であるキャロラインさんのご自宅での活動でした。被災した小屋の土壁落とし、余震で崩れた薪の整理、水槽の水漏れの応急処置などをおこないました。小屋を修理して露天風呂にしたいと、とても素敵な計画を教えてくださいました。大自然の中で、作業の合間に一緒にお昼ご飯を食べ、楽しいひと時を過ごすことができました。被災したすべての人々の上に、神様の深い愛と慈しみがありますように。





▽旭川聖マルコ教会

エアコンの風向きを気にしながらの礼拝です。一五〇年の記念礼拝には、旭川から二一名が参加。その後、教会で一緒にダイジェスト版を見るなど、喜びを分かち合いました。二一日、バザー会議を開催し、今年も実施すること。ただし、例年一番手のかかる中古衣料と雑貨コーナーはやめて、持てる力で、できることを効果的にやろうと話合っています。九月二八日に行います。毎週水曜日の聖書輪読会は、一二小預言書に入りました。旧約聖書読破ももう少しです。園庭で遊ぶ園児たちの楽しい声や泣き声も聞こえ、心とむひと時です。

保育園の江丹別におけるジャガイモの草取りは無事に終わりましたが、旭岳登山は大雨のため残念ながら中止。ご高齢の信徒の体調不良や入院が相次いでいます。どうか、健康やかにこの夏を乗り越えることができませんように！

▽岩見沢聖十字教会

七月一五日、北海道教区宣教一五〇年記念礼拝が札幌キリスト教会で開催。当教会からも参加して恵みに与りました。西原廉太主教様から教区の歴史を分かりやすく解説されました。植松誠主教様はじめ懐かしい方々と再会。笹森田鶴主教様がおっしゃった「一人ひとりの物語を大切に」。今日から新たな物語の始まりです。

二一日、主教巡回礼拝。愛餐会では一五〇年の話題で盛り上がりました。初めて牧師館を見て頂きました。歴代の吉野司祭、横山司祭、池田司祭の思い出が残っています。

▽小樽聖公会

七月一三日(土)午後三時。「宣教一五〇年記念礼拝」に

出席されるオーストラリア聖公会リベリナ教区ドナルド・カーク主教とポール熊坂司祭が訪ねてくださる。車での移動等を札幌キリスト教会のYさんご家族が奉仕。懇談し共に祈る。

一五日(月)待ちに待った歴史的大礼拝。一五〇年記念礼拝に当教会より七名出席。

一六日(火)午前一一時。植松主教ご家族が池田司祭を見舞うため宿泊する札幌から来樽。ひと時、しかし慰めと希望を与えられ、小樽聖公会のために祈りをささげる。

▽釧路聖パウロ教会

▽厚岸聖オーガスチン教会

(伝道所)

今月はまず、先月末の「出会いと交わりの日」の詳報を。帯広聖公会から来られた大町司祭はまるで赴任牧師の如く馴染んでおられました。

それもその筈、大町司祭はパウロ教会の大勢の信徒達と以前から交流があったり、顔馴染だったたりして、随分前から「出会いと交わりの日」を続けて来られていたわけ

す。

礼拝後の昼食会はまさに絵に描いたような和やかな昼食会になりました。参加者一四人。簡単な自己紹介だけで旧交を温めました。春田さんお手製の豚汁にお弁当。皆さんの楽しそうな顔、顔、穏やかな時間が過ぎていきます。

七月に入り、北海道教区宣教一五〇年企画「連続講座アイヌとキリスト教」が始まりました。パウロ教会でも第二回、第三回の講座を配信。北海道教区独特の歴史や、今後求められる多様性の在り方、生き方等への深い知識を獲得出来そう。楽しみが増えます。

▽帯広聖公会

七月は特に暑い日もありましたが、元気な高齢者を中心に礼拝を守っておりました。今月は何と言っても北海道教区宣教一五〇年記念礼拝・祝会が行われたことに尽きると思います。帯広教会においても四名がウェブ参加し、札幌の礼拝・祝会にも大町司祭を含め九名が参加しました。全国

徒の中で北海道聖公会の歴史と私たちの結びつきを改めて確認させていただきました。続く祝会ではこれからの北海道教区を担っていく若い信徒たちの司会の中『歩き続けよ福音の道を』のスローガンに思いを新たにいたしました。

▽稚内聖公会(伝道所)

七月の稚内はさすがに夏の装いでした。今回も三名で礼拝。いつものように窓を開け放ち、ひと月ぶりに風を通して掃除機をかけ、礼拝を始めます。懸案だった外壁、内部の補修の話も動き始めました。傷んではいますが、まだまだ大切に使用していきたい建物です。教区一五〇年記念グッズの稚内の缶バッジは、黒字に白で「最北端」とだけ記しています。どうぞお買い求めください。

▽苫小牧聖ルカ教会

最近の苫小牧の夏は驚くほど気温も高く蒸し暑い日が増え、クーラーの無い礼拝堂は大変です。でも、月ごとに変化するお庭の花々が目を楽しませてくれます。新しく業務

用掃除機を購入し、よりきれいな礼拝堂になることを期待します。一五〇年記念礼拝には二名が参加されました。多田姉が闘病中。皆様、お祈りください。去る七月六日の第六六回聖ルカ幼稚園運動会は子どもたちの頑張る姿にたくさん感動をもらいました。

▽札幌キリスト教会

七月に入り、宣教一五〇年記念札幌移動展「ジョン・バチラーの足あと」伝道活動とアイヌ文化研究」が一〇日から一六日まで一階ホールで行われました。一四日は当教会創立一三二周年にあたり、主教様の巡回をいただき記念のお祈りをお捧げしました。

翌日一五日は教区一五〇年の記念礼拝が当教会を会場に捧げられました。当日は道内外から三九〇名もの出席があり盛大に行われました。

一九日には、道庁の合唱団のミニコンサートに会場提供し、多くの方が教会に足を運んでくださりました。

ヨハネ小澤信明さんが一八日に逝去され、葬送式が当教

会で一九日に行われました。

▽札幌聖ミカエル教会

七月六日、雨天の中、幼稚園運動会は欠席無しで怪我もなく無事に開催。一九日から幼児部の夏休み開始。渡米された李香男司祭が教区の一五〇年記念礼拝に合わせて来札しており主日礼拝、愛さん会にて旧交を深める。日曜学校も二一日から夏休みとなり九月から活動を再開予定。夏には昨年好評だった勉強会を企画中。一九日はカルチャーナイト二〇二四に参画し、キャンドルを灯した夕の祈りを来訪された方々と共にしました。

▽聖マーガレット教会

七月の第二主日より礼拝後に信徒から募集した聖歌を歌う「ちょこっと聖歌タイム」がスタート。一四日には小貴家の逝去者記念式が行われ、主日の礼拝には信徒と合わせて多くの方々と共に礼拝をお捧げすることができました。教区宣教一五〇年記念礼拝には当教会からも多数参加し、北海道での教区の歩みを改め

て振り返ると共に、これからの歩みに向けた決意を新たにすることができました。六月三〇日ハンナ川北キヌ氏が天国に召されました。長きに渡る教会でのご奉仕に感謝します。

▽函館聖ヨハネ教会

藤井司祭が始めたファミリースービスでの絵本の読み聞かせ、今でも続いています。七日は子ども達がいまそんでしたが「だいじょうぶだよ、ゾウさん」を静かな聖堂の中に染み渡るような声で読んで頂きました。一四日は上平司祭による聖餐式、一五日の宣教一五〇年記念礼拝に一五名が参加、二〇日はラインで委員会、二一日は木村司祭による聖餐式の後、藤田敬子さんの逝去記念式埋葬式が行われました。遺愛生が礼拝に参列するようになり、いよいよ夏本番です。健康を祈ります。

▽平取聖公会

六月三〇日の「出会いと交わりの日」礼拝には留萌から木村夕子司祭が来られ司式説教をしてくださいました。

「一五〇年記念講演会」には内海司祭と井澤委員が毎回出席しています。

一五〇年記念礼拝には内海司祭と五名の信徒が出席し、感激を共にすることができました。小貴ツマ司祭とお会いできとても嬉しかったです。

七月二八日の笹森主教の巡回礼拝には保育園職員も出席しました。この礼拝から代祷に東北教区長谷川清純主教のお名前が加わりました。

七月二十九日、三〇日に苦小牧と平取で教区施設職員研修が開催されました。

▽有珠聖公会

七月に入り、参道はすっかりアジサイの花の紫に彩られました。一四日、聖餐式が捧げられました。礼拝後、熊澤さんから差し入れのメロンを皆でいただき思う存分夏の味覚を楽しみました。一五日の教区宣教一五〇年礼拝には、片平芳弘さん、茅野さんご夫妻が出席しました。

▽留萌キリスト教会

夏らしい暑さが始まった留萌から、教区の宣教一五〇年

記念礼拝に四名が出席しました。小さな子どもたちが聖歌隊のご奉仕で、長い時間を静かにしていたのにはとても感心しました。祝賀会では深川の皆さんや、ゆかりのある方々との再会もあり、楽しく賑やかな時を過ごしました。

今回札幌には出られなかった信徒たちも含めて、教会で一五〇年を祝う会・ご苦労さん会・これからも頑張ろう会を開いてはどうかと話し合っています。皆の目がキラリと輝いています。

▽深川聖三一教会

七月三日、毎週水曜日保育園の礼拝。赤い服装の園児一名ローソク点消係、他一名は十字架捧持者。年長者担当。七日委員会、宣教協議会担当者を選出、佐々木佳三氏。一〇日職員会議、園内研修の担当森園保育士による「水あそびの注意」についての指導。

一五日教区宣教一五〇年記念礼拝に七名出席す。祭の聖歌。ピリカレラ モシリの作曲家佐々木茂先生は当教会のご出身です。光栄を共にできて

感謝です。一七日、保育園に市の児童委員の方々視察に来られる。二八日、寺岡家と沢辺家の逝去記念式が一人出席のもとで行われる。

▽紋別聖マリヤ教会

紋別にも暑い夏がやってきました。やっと夏の花たちが次々と咲き始め、日曜日の祭壇に飾れるようになりました。一五日の一五〇年記念礼拝には紋別からは二名の参加でしたが、普段とは違い大勢での礼拝・聖歌での賛美ができたことは大きな喜びでした。幼稚園では連日のように外で水遊びを楽しみ、園児たちで賑わっています。

一八・一九日はお泊り会で、年長児が保護者のもとをはなれて過ごしました。子どもたちのために、たくさんのごプログラムを用意してくれた先生たちに感謝です。

▽網走聖ペテロ教会

七日、ギデオン協会北見支部、鈴木謙一氏の来会。共に主日礼拝を守り、後、活動報告と証しを聞き、祈りの時を持てて感謝でした。この日の

ため準備しておいた献金箱の献金をお捧げできました。

主日礼拝聖書日課の詩編、改正試用版を月毎に別刷りしてトライアル使用開始です。平易な言葉になり、好感。

宣教一五〇年記念礼拝は、

信徒二人と牧師が出席で札幌へ。練習を重ねた記念聖歌の晴れの成果発表も。ハレルヤ。

網走のまちは二五・二七日の三日間「オホーツク夏まつり」のにぎわい。週末は帽子岩を背景に、夜空に大輪の花火で彩られました。

▽新札幌聖ニコラス教会

昨年の猛暑に比べると少し過ごしやすく七月に入りました。阿部先生が囑託司祭になられ、毎週聖餐を受けられる、恵まれた主日を過ごしています。

一五〇周年には、以前教会

で囑託司祭としてお勤めいただいた佐藤信康先生の奥様が東京よりご出席くださり、懐かしく旧交を温めることができ感謝でした。

教会のお庭、信徒の庭の花を、祭壇に献げることができ

るようになり嬉しいことです。

婦人会の聖書読みも、先生の指導のもとヨハネの福音書一二章までできました。

▽北見聖ヤコブ教会

教団北見望ヶ丘教会牧師就任式に一三日司祭出席。一五日の一五〇年記念礼拝に信徒の皆様は高齢と体調のため参加出来なかったが祈りをもつて応援、『ベリカレラ モシリ』に感動。二一日には使徒聖ヤコブ日礼拝をお捧げいたしました。あえて説教の形をとらず、『ミサの前に読む聖人伝』を朗読いたしました。ただ礼拝堂にはクーラーも網戸もありませんので、危険な暑さを感じ、皆様をお守りするため、礼拝を短くさせていただきました。皆様もご自愛くださいたいと思います。

▽室蘭聖マタイ教会

信徒の高齢化と教会の行事の少なさもあって、報告する事項が少ない事をご理解ください。

今夏は室蘭も暑い日々が多いと思います。六月三〇日出

会いと交わりの日に深川より甲斐博邦司祭と富美子さんが室蘭においでになり、親しい交わりの時間が与えられました。

七月一四日は松井司祭により聖餐式のお恵みに与りました。七月二七日(土)一〇時三〇分、松井司祭による聖餐式。礼拝後、八月の墓地礼拝、その他の予定が話し合われました。今年の異常な暑さもう少しの辛抱です。

▽新冠聖フランシス教会

夏真っ盛り、教会の周りは新緑に覆われて遠くを見通せない状態になっていますが、蝉の鳴く賑やかな音に、耳を傾け、静かな環境のなかで礼拝聖餐の恵みに感謝です。

七月最後の二八日(日)この日は、笹森主教様がおいでになりました。

また、札幌より今村ご夫妻がお見えになり一緒に主日を守る事ができました。お菓子の差し入れ有り難うございます。

いろいろな事情で教会へ足を運べない方々のため神様の

み守りと豊かな祝福がありますようお祈り致しております。

▽今金インマヌエル教会

先日七月二八日の礼拝は永谷司祭が来町、聖霊降臨後第六主日の礼拝が守られました。更に八日のキャンプにも引率で来られるとの事、晴天に恵まれるといいのですが心配です。また、夏の太陽をたっぷり浴びて育った農作物(ミニトマト・ブロッコリー・大根・男爵イモ等)、大変おいしいです。全てはバランス。太陽と水分がバランス良く注がれ、味や色づき、美味しさが決まります。天の恵みに感謝です。特に午後三時から五時までの日照時間がたっぷりある事で全ての作物の味は決まります。

